

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0170501183		
法人名	有限会社ケアプロダクツ		
事業所名	グループホーム あじさい中の島		
所在地	札幌市豊平区中の島2条7丁目3-15 ル・パルク中の島2階 (電話) 011-815-0108		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年9月5日	評価確定日	平成20年10月1日

【情報提供票より】(20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 13 年 5 月 8 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤	8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.1 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円
その他の経費(月額)	光熱費 15,000円 暖房費 12,000円 (11月~3月)
敷金	(有) (36,000 円) 無
保証金の有無(入居一時金含む)	有 () 円 有りの場合償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食 300 円 昼食 400 円
	夕食 700 円 おやつ 円
	または1日当たり 円

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	8 名	男性 3 名	女性 5 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 78 歳	最低 69 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	澄川循環器内科クリニック.ときわ病院.日之出歯科真駒内診療所
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

学生会館だったビルを改装した事業所である。上階部も他法人の事業所で、1階を共同の多目的ホールとして使用している。街中に立地しているが、河川敷や公園があり、静かな環境である。事業所内は手狭であるが、家庭的雰囲気を出し工夫がされている。管理者と職員は利用者との信頼関係を大切に、運営者と連携を取りながら『和楽』の実現に向け努力している。事業所に9部門の委員会を設置して、職員がそれぞれを担当し、サービスの向上に取り組んでいる。外出支援や個別対応の時間を設けて利用者のストレス緩和に配慮し、明るく伸び伸びと暮らしている様子が伺える。職員間の人間関係も良好で、利用者との馴染みの関係が築かれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題は①代表参加のケアサービスの質の向上②ヒヤリハットの作成・共有・再発防止への取組み③トイレのプライバシー配慮は改善されている。④パンフレットの理念の記載⑤契約書の権利・義務の項目明記⑥献立内容のカロリー・栄養バランスへの取組みは検討中である。 今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 管理者は評価の目的や意義を職員に説明し、職員は各自で評価項目の点検に取り組んでいる。運営者や管理者が職員各自の自己評価表をまとめ上げ、利用者に活かされるよう改善に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は18年10月から開催しているが不定期で、20年7月に4回目が開催された状況である。運営推進会議では、構成メンバーの方にビル内合同避難訓練や認知症講座に見学や参加をして頂きながら、事業所の状況を報告し、意見や質問、要望などを伺い運営に活か取組みが行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 広報委員会が「あじさい便り」を隔月で作成し家族へ郵送している。金銭出納明細は毎月郵送し報告している。運営推進会議に家族に参加して頂き、また家族来訪時や電話での報告時に、意見や要望を伺うようにしている。介護計画書の郵送時にも家族からの意見・要望を伺う用紙を同封し、重要事項説明書には第三者の苦情相談窓口も明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 平成19年に町内会に加入し、今年度は班長や中学校の「子供110番」を引き受け活動している。町内会行事の運動会や夏祭り、盆踊りに参加し、日課の散歩時には、近隣の公園や町内のごみ拾いをして互いの交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所理念「和楽」は住み慣れた環境のもとで和やかに楽しく暮らしていただけるよう支援することを目的に、平成17年に管理者や職員で作りあげた理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念は職員採用時に説明をし、カンファレンスや職員全員参加の会議（1回／月）で、話し合いや確認を行っている。ユニット入り口の見やすい場所に理念を掲げ、常に意識できるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平成19年に町内会に加入し、今年度は班長や中学校の「子供110番」を引き受け活動している。町内会行事の運動会や夏祭り、盆踊りに参加し、日課の散歩時には近隣の公園や町内のごみ拾いを行い、互いの交流を深めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の目的や意義を職員に説明し、職員は各自で評価項目の点検に取り組んでいる。運営者や管理者が職員各自の自己評価表をまとめ上げ、利用者へのサービスの向上に活かすよう改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は18年10月から開催しているが不定期で、20年7月に4回目が開催された状況である。運営推進会議では、構成メンバーの方にビル内合同避難訓練や認知症講座に見学や参加をしていただき、事業所の状況を報告し、意見、質問、要望などを伺い、運営に活かすよう取り組んでいる。	○	運営推進会議の開催回数が少ないので、テーマを工夫して定期的開催し、メンバーにモニター役を担っていただきながら、サービス向上に取り組むよう期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、事業所運営や利用者に関する課題について、積極的に相談や協議をしながら、課題解決に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	広報委員会が、利用者の暮らしぶりが伝わる写真や、利用者それぞれの担当職員による近況報告などを掲載した「あじさい便り」を隔月で作成し、家族へ郵送している。金銭出納明細は毎月郵送し報告している。家族来訪時や電話の際にも適時報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族にも参加してもらい、また家族来訪時や電話での報告時に、意見や要望を伺うようにしている。介護計画書の郵送の際にも、家族からの意見や要望を伺う用紙を同封している。重要事項説明書に第三者の苦情相談窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、管理者や職員の福利厚生などの待遇改善に取り組み、現在では離職者も減り、利用者は職員と馴染みの関係を築いている。やむを得ず離職される場合は、利用者との信頼関係を考慮して「さよなら会」を開くこともあり、利用者への配慮を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が、1～2ヶ月毎に内部研修会を開き、認知症やコミュニケーションなどをテーマに学習をしている。業務の一環として外部研修を捉え、パンフレットを張り出し、会社経費で受講できるよう参加希望者を募っているが、参加が少ない。	○	外部研修は計画性を持って、全職員がそれぞれの段階に応じたテーマの研修に年1～2回程度の出席を促し、研修成果を他の職員に還元出来る取り組みの強化を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、区の在宅ケア連絡会や管理者会議に参加し、またビル内の他法人の事業所管理者とも交流を深めているが、職員間での交流の機会が無く、今回初めて、豊平区主催の職員合同研修会への参加に取り組んでいる状況である。	○	他同業者との職員間レベルでの交換研修、症例報告などの学習会や交流の機会を設けて、サービスの質の向上や職員育成への取り組みを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所を必ず見学して頂き、内容を説明して、他利用者や職員とお茶を共にしながら、雰囲気を感じてもらおうよう配慮している。居宅の場合は、ケアマネージャーも同行して自宅訪問をし、暮らしぶりを伺うようにしている。病院からの場合は、管理者と職員が幾度も面会し、馴染みながらサービスを受けられるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は理念の実現に向けて、互いの信頼関係が大切であると考えており、管理者、職員、利用者が一体となって支え合える関係を築こうと努めている。運営推進会議にも利用者に積極的に参加してもらおう等、職員と共に過ごし、支え合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に「今までの暮らし方シート」や「生活史」を家族に伺い作成し、出来ること出来ないことを把握している。日常生活の中で、本人の希望や意向を把握して情報を蓄積している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員2名が利用者1名を担当して、話し合いながら介護計画を立案している。カンファレンスで本人や家族、計画作成担当者、管理者、担当職員などが集まり、その介護計画立案書を基に「その人らしい暮らし」が出来るよう話し合いを重ね、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間に、カンファレンスで利用者の担当職員が中心となり、介護手順（基本動作・入浴・排泄・食事など）と介護計画のケア内容の評価・アセスメントを行い、関係者と協議し見直しを実施している。また、常にモニタリングを意識し、計画のズレや急変時には状況に合わせて対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望により、職員との個別対応の時間を設けて、趣味や買い物、馴染みの場所への外出などの支援をして楽しんで頂いている。また、通院や入居時の引越しの支援もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医による往診で健康チェックが毎週行われ、利用者の健康管理の支援をしている。利用者の希望により、入居前のかかりつけ医や他科受診の通院支援も行っており、家族へ受診内容の報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合に事業所で出来ること・出来ないこと、また終末期の対応は実施していないことなどを説明して、同意の上で入居に至っている。また重度化した場合は、本人や家族、かかりつけ医、職員でその都度話し合いを重ね、方針を共有し支援に繋げている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	管理者や職員は、利用者のプライバシーの尊重を心がけている。利用者との信頼関係が築けるまでは、言葉かけを大切にして、職員同士も感謝の気持ちを忘れずに支援することを心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のリズムを大切にして支援している。また、生活の中で個別対応の時間を設けて、利用者の希望に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー委員会が利用者の希望を伺いながら献立を作成している。買い物や調理の下ごしらえ、食器洗い、後片付け等の一連の作業を利用者と職員が共に行っている。利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、和やかに会話を楽しみながら食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回程度、1時～4時頃の間で、利用者の状況に合わせて、見守りや介助などの入浴支援をしている。また毎日入浴したい利用者には、希望に沿っての入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野を把握して、食器洗い、拭き掃除、日曜大工、花や野菜の水やり等の役割を率先して行って頂く支援をしている。最近では、利用者と職員でパークゴルフ同好会を結成し、近所の河川敷でプレーを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事予定を立て、月1回は花見、山菜採り、小樽運河散策、果物狩り、動物園、紅葉見物などの外出支援をしている。利用者の希望により、海水浴、大通ビール園、花火大会などの個別支援も行っている。午前の散歩は日課になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ防犯の為事業所入り口（兼ユニット入り口）を施錠している。日中は開錠している為、センサーを設置して、利用者の気配を察知し、さりげない見守り支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員会が中心となり年2回の自主避難訓練のほか、消防署指導による当ビル合同避難訓練や消防訓練を年1回実施している。今後、夜間想定避難訓練を予定している。地域の協力体制が充分整備されておらず、今回は見学をしてもらい、意見を伺っている。	○	運営推進会議で、災害時における地域住民の協力についての話し合いを重ね、体制作りに向けて取り組みの強化を期待する。また夜間を想定した避難訓練の実施や非常用備品の準備などの取り組みも期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量は毎食後チェックし、必要な方の水分チェックや排泄チェックを行っている。嚥下状態により、とろみ食や刻み食などの個別支援をしている。食事制限の必要な利用者には、目分量で大まかな摂取カロリーや塩分制限に配慮している状況である。	○	メニュー委員会や栄養士の方が中心となり、毎月、1週間程度の献立をカロリー計算して摂取カロリーや栄養バランスを把握し、それぞれの利用者に適切な栄養が提供できるような取り組みの強化を期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は全体的に手狭な印象を受ける。居間は中央にテーブルを2台配置しており、その周りは人が行き交うのに譲り合いが必要な状況である。が、それが返って、利用者や職員との親密度を増し、食事中的楽しい語らいに繋がっている。環境整備委員会がレイアウトを工夫し、和める雰囲気を作り上げている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく、広く、入り口に洗面所が設置しており、とても便利である。床は柔らかなフローリングになっている。利用者は家族と相談しながら、馴染みの使い慣れた家具や必需品を持ち込んで自分の空間を造っている。		

※  は、重点項目。